

**報道ご関係者各位**

«同時資料提供»  
大阪府政記者会  
大阪市政記者クラブ  
大阪経済記者クラブ

大阪府 府民文化部 文化・スポーツ室 文化課  
大阪市 経済戦略局 文化部 文化課  
公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

**令和2年度大阪文化祭賞受賞者の決定ご案内**

大阪府、大阪市及び公益財団法人関西・大阪21世紀協会では、芸術文化活動の奨励と普及を図り、大阪の文化振興の機運を醸成することを目的に、大阪府内で上演された公演の中から優れた成果をあげたものに対して「大阪文化祭賞」を贈呈しており、今年で57回目の開催となります。

このたび、令和2年に大阪府内で開催された公演を対象に、独創性に富み、企画・内容・技法が総合的に優れていること等について審査をいたしました結果、各賞を決定いたしました。

なお、贈呈式については、新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、開催しません。

**令和2年度大阪文化祭賞 受賞者**

**大阪文化祭賞**

- ・竹本鋳太夫  
「初春文楽公演『傾城反魂香』【土佐将監閑居の段】」の成果
- ・工藤俊作  
「プロジェクト KUTO-10」の制作活動
- ・堺シティオペラ  
「第34回定期公演『アイーダ』」の舞台成果

**大阪文化祭奨励賞**

- ・豊竹希太夫  
「錦秋文楽公演『本朝廿四孝』【景勝上使の段】」の成果
- ・沢村さくら  
「沢村さくら二十周年記念曲師の会」の成果
- ・橋本匡市  
オンライン配信を活用した演劇公演の企画上演
- ・環バレエ団  
「オータム・バレエ・コンサート」の成果
- ・會田瑞樹  
「ヴィブラフォンソロリサイタル in OSAKA」の成果

※副賞賞金として、大阪文化祭賞20万円、大阪文化祭奨励賞5万円がそれぞれ贈られます。  
※各受賞者の受賞理由・略歴等は別添資料をご参照ください。

## 《各受賞者の受賞理由・略歴》

### 大阪文化祭賞 3件

#### 竹本鋳太夫

#### 「初春文楽公演『傾城反魂香』【土佐将監閑居の段】」の成果

(たけもとしころだゆう/はつはるぶんらくこうえん けいせいはんごんこう とさのしょうげんかんきょのだん)のせいか)

(第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

竹本鋳太夫氏は、2020（令和2）年1月、大阪・国立文楽劇場「初春文楽公演」において、戦前に活躍した五代目竹本鋳太の名跡を六代目として襲名。披露狂言「傾城反魂香」では、吃音の絵師、又平とおとく夫婦の情愛と、芸術がもたらす奇跡の物語を、又平そのものともいえる実直な芸風に鋳太夫自身の誠実な人柄が相まって、観客に奇跡を信じさせるような語りを披露した。

同氏は長く、人間国宝だった故鶴澤寛治氏の三味線で語っていたが、そのときの精進がこのような大きな名跡を継ぐことによって花開いたといえる。文楽は太夫が第一といわれる。特に、人間国宝の豊竹咲太夫氏に次ぐ位置にある七十代のベテラン世代の奮起が期待される。そんななかで、同氏が力量を見せ、語りに持ち味が発揮されるような舞台を務めたということは、現代文楽の魅力を一層増すものであり、文楽の芸の継承にも大きな成果をもたらすものといえる。



©国立文楽劇場

#### 【略歴】

昭和44年四代 竹本津太夫に入門。竹本津駒太夫と名のる。昭和45年10月 朝日座で初舞台。昭和64年1月五代 豊竹呂太夫の門下となる。令和2年1月 大阪・国立文楽劇場において、六代目竹本鋳太夫を襲名、「傾城反魂香～土佐将監閑居の段」で披露。

昭和52年の第5回（昭和51年度）文楽協会賞を皮切りに、これまでに文楽協会賞を2度（第5回、第11回）、因協会奨励賞を5度（昭和55年度、昭和61年度、平成元年度、平成3年度）、国立劇場文楽賞文楽奨励賞を3度（第12回、第18回、第21回）受賞。平成9年名古屋ペンクラブ賞。平成13年度因協会賞。第39回（令和元年度）国立劇場文楽賞文楽優秀賞。



工藤俊作

## 「プロジェクト KUTO-10」の制作活動

(くどうしゅんさく/「ぶろじゅくと くとうてん」のせいさくかつどう)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

「プロジェクト KUTO-10(くとうてん)」は大阪の個性派俳優、工藤俊作が 1989 (昭和 64) 年に結成したプロデュース集団。劇作家、演出家、俳優、スタッフらを独自の視点で選び、多彩な舞台を世に送り出してきた。たとえば 2020 (令和 2) 年には第 19 作目となる「なにわ ひさ石 本店」を上演。小劇場演劇の軽やかさの中に上方喜劇の味わいが漂う好舞台に仕上げた。

「プロジェクト KUTO-10」の最大の魅力は、所属劇団が異なる演劇人たちが出会う点にある。そのことにより、通常の劇団公演には見られない化学反応が起き、シリアスな社会派作品から幅広い層が楽しめるコメディまで、スタイルの異なる上質な舞台が次々に生まれた。首都圏をはじめ他地域での公演も行っており、大阪の若手演劇人の育成の場になるとともに、大阪の演劇の魅力を広く発信する役割も果たしている。演劇の力を信じ、息長くコツコツとプロデュース活動を続けてきた功績に対し、大阪文化祭賞を贈る。



©山田徳春 (500G Inc.)



©クリス (500G Inc.)

### 【略歴】

昭和 40 年大阪生まれ。17 歳で演劇活動を始め、昭和 59 年に大阪芸術大学に入学。在学中に劇団大阪太陽族 (現・劇団太陽族) に入団。17 年間在籍し、劇団の全作品に参加。出演作も OMS プロデュース『滝の茶屋のおじちゃん』(作 蟻螂襲、演出 北村想)、FWF『日本三文オペラ・疾風馬鹿力篇』(原作 開高健、脚本・演出 内藤裕敬)、劇団太陽族『ここからは遠い国』(作・演出 岩崎正裕) など多数。平成 12 年には第 3 回関西現代演劇俳優賞男優賞を受賞。俳優活動と並行して、昭和 64 年に自主プロデュース「プロジェクト KUTO-10」を立ち上げる。現在まで 32 年に亘りプロデュース公演を継続し、20 作品を上演。幅広い人脈と演劇への真摯な姿勢で、劇作家と演出家の稀有な組み合わせ、若い俳優の積極的な起用を実現し、シリアスからコメディまで興味深い作品を世に送り出している。



## 堺シティオペラ

### 「第34回定期公演『アイーダ』」の舞台成果

(さかいしていオペラ/「だいさんじゅうよんかいていきこうえん『あいーだ』」のぶたいせいか)

(第3部門：洋舞・洋楽)

堺シティオペラ第34回定期公演『アイーダ』は、「フェニーチェ堺」のグランド・オープンを祝うものでもあったが、その開館を記念するばかりか、市民オペラの上演史において記憶に残る内容となった。タイトル・ロールを熱演した並河寿美が役柄の微妙な心情を丁寧に描き出すなど、歌手のパフォーマンスがいずれも高水準であったのもさることながら、衣装や照明、舞台装置は壮麗であるばかりか場面描写や物語全体の筋の展開にも重要な役割を果たすものとなっており、美術の面でも作品の内実に向ける深みがあったと言える。地元市民を含む総勢150名からなる大合唱団が登場した「凱旋」の場面など、日本の地方都市で制作・上演されたとは思えないほどの美しさと圧倒的な迫力を放っていた。オペラが音楽と美術、テキストからなる総合芸術であることを改めて示した点で、指揮者の牧村邦彦、演出家の粟國淳をはじめ制作に関わった関係者全員を高く評価したい。



【略歴】昭和53年市民オペラとして産声をあげ、平成22年より堺シティオペラ一般社団法人として毎年オペラ定期公演を開催。創設当時から海外の歌劇場やオペラ団体との交流を盛んに行い、平成18年にはイタリアのプッチーニフェスティバルで、日本の団体として初めて現地との共同制作による「蝶々夫人」を上演、真の日本の様式美として絶賛を博した。平成31年2度目のウィーン公演では現地大使館の後援を得て、数日に亘って日本とオーストリアを結ぶ公演を全うし、メディアからも高い評価を得た。同年堺市新設のフェニーチェ堺に於いて出演者・スタッフ総勢350人以上でオペラ「アイーダ」を公演し、日本全国から注目を集めた。本年はCOVID-19への対策の一つである「堺から“あなたの自宅へ”～Stay Home 応援プロジェクト～」に於いて、過去のオペラ公演の動画を無料世界配信し、世界のオペラファンから注目された。平成26年音楽クリティッククラブ賞、佐川吉男音楽賞(「黄金の国」)。平成27年大阪文化祭奨励賞(「カルメン」)受賞。



## 大阪文化祭奨励賞 5件

### 豊竹希太夫

#### 「錦秋文楽公演『本朝廿四孝』【景勝上使の段】」の成果

(とよたけのぞみだゆう/「きんしゅうぶんらくこうえん ほんちょうにじゅうしこう かげかつじょうしのだん」のせいか)

(第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

「錦秋文楽公演『本朝廿四孝』【景勝上使の段】」における豊竹希太夫の浄瑠璃は、声が良く伸びて安定感があり、人物をよく把握して、語り分けにもめりはりがあった。今年度は新型コロナウイルス感染症対策による厳しい状況で、公演も激減したが、そのなかでの進境には著しいものがあり、今後のさらなる活躍が期待される。



©国立文楽劇場

#### 【略歴】

平成14年4月国立劇場文楽第20期研修生。  
平成16年豊竹英太夫（現・六代呂太夫）に入門。  
豊竹希太夫と名のる。平成16年7月 国立文楽劇場で初舞台。  
第41回（平成24年度）文楽協会賞受賞。第34回（平成26年度）国立劇場文楽賞文楽奨励賞、平成30年度文楽協会賞、第39回（令和元年度）国立劇場文楽賞文楽奨励賞。

### 沢村さくら

#### 「沢村さくら二十周年記念曲師の会」の成果

(さわむらさくら/「さわむらさくら にじゅうしゅうねんきねん きょくしのかい」のせいか)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

浪曲の曲師、沢村さくらが入門二十周年記念の「曲師の会」を開催した。さくらは東京で入門し、2005（平成17）年以降は大阪で活動。この会では東西の浪曲師の三味線をつとめて関東節、関西節を見事に弾き分け、曲弾きや解説も交えて浪曲の魅力を存分に伝えた。巧みな技や企画力に加え、曲師の存在の重要性を示したことも合わせて評価したい。



©小林正明



©小林正明

#### 【略歴】

山形県出身。平成 12 年 3 月に曲師沢村豊子に弟子入り。同年 11 月浅草木馬亭「国友忠の会」で初舞台。東京で活動していたが平成 17 年に大阪へ住まいを移し、以後大阪を中心に活動する。

平成 27 年から曲師にスポットをあてた「曲師の会」を年 3、4 回のペースで開催。平成 28 年「沢村豊子・さくら曲師の親子会」を大丸心齋橋劇場と浅草木馬亭で行う。平成 29 年「小林正明写真展 日日是浪曲一曲師さくらの世界」が大阪、東京、名古屋のキャノンギャラリーにて開催され、同名の写真集が発売された。平成 30 年からは「浪曲三味線ワークショップ」を主宰。令和 2 年「沢村さくらの浪曲三味線教材 DVD」が発売。第 18 回（令和 3 年）上方の舞台裏方大賞受賞。

## 橋本匡市

### オンライン配信を活用した演劇公演の企画上演

(はしもとただし/おんらいんはいしんをかつようしたえんげきこうえんのきかくじょうえん)

(第 2 部門：現代演劇・大衆芸能)

コロナ禍により多くの演劇公演が中止・延期を余儀なくされる中、企画主任を務める小劇場・ウイングフィールドでいち早く 5 月に配信プラットフォームを開設。この「仮想劇場」を用いた短編演劇祭も企画した。表現の場を守ると共に、若手と映像系クリエイターを結ぶなど、出会いの機会も創出。劇場の在り方を模索した点を評価する。



©井上信六



#### 【略歴】

近畿大学文芸学部芸術学科卒業。伊丹想流私塾第 16 期卒塾。平成 17 年に劇団「尼崎口マンポルノ」を旗揚げ。作・演出を担当。平成 24 年に解散後、演劇ユニット「万博設計」を立ち上げ。「普通の中の異常」と「異常の中の普通」を揺らめく演劇を標榜し活動開始。団体として令和元年度「文化庁芸術祭」優秀賞受賞。個人として「若手演出家コンクール 2019」優秀賞、「佐藤佐吉賞 2016」優秀宣伝美術賞受賞。またウイングフィールドの企画主任として「WINGCUP」「ディレクターズワークショップ」等の企画立案を行う。



## 環バレエ団

### 「オータム・バレエ・コンサート」の成果

(たまきばれえだん/「おーたむ・ばれえ・こんさーと」のせいが)

(第3部門：洋舞・洋楽)

1964（昭和39）年に団を創設し、2019（令和元）年大晦日に逝去した環佐希子によるモダンバレエ5作品を上演。追悼・顕彰にとどまらず、その時代を超える魅力を余すところなく見せた。他にサイトウマコトによるエネルギッシュな群舞と奇抜な発想が哀切を誘うコンテンポラリー作品、「くるみ割り人形」と、幅広い対応力を実証するレベルの高い公演だった。



©古都栄二（テス大阪）



©古都栄二（テス大阪）



©大藤飛鳥（テス大阪）

#### 【略歴】

環佐希子は11歳よりバレエを始め、昭和38年パリへ留学。マダム・ノラ、イリック、スペイン舞踊の第一人者テレジオ・パラシオ、さらに身体矯正法で有名なクニヤゼフに習う。帰国後、昭和39年に環佐希子を団長に環バレエ団設立。

昭和40年1月より大阪青少年会館、大阪フェスティバルホール、厚生年金会館大ホール、メルパルクホール等で毎年公演を開催。

奈良、神戸、和歌山、関西一円に支部教室をもつ。平成16年に現在のスタジオに移転。クラシックバレエ、創作バレエ、スペイン舞踊、コンテンポラリー等幅広く活動が続けている。

會田瑞樹

## 「ヴィブラフォンソロリサイタル in OSAKA」の成果

あいたみずき/「づいぶらふおんそろりさいたる いんおおさか」のせいか)

(第3部門：洋舞・洋楽)

関西の作曲家の新曲を集めた公演において、優れた企画力、確かなテクニックで魅了した。相撲を音楽にした「相撲ノヲト」など、ユーモラスな曲を披露し、楽譜も展示。作曲家らが会場で解説も行った。敬遠しがちな現代曲の数々を、親しみやすく紹介することに成功した。今後さらに充実した活動に期待を込め、顕彰したい。



【略歴】平成22年日本現代音楽協会主催“競楽IX”第2位入賞と同時にデビュー。以降これまでに300作品以上の新作初演を手がけ「初演魔」の異名をとる打楽器／ヴィブラフォン奏者。令和元年第10回JFC作曲賞に入選し、作曲家としても頭角を現す。令和2年最新アルバム「いつか聞いたうた ヴィブラフォンで奏でる日本の叙情」を発表。レコード芸術特選盤、サライ推薦をはじめ各誌より絶賛される。東京オペラシティ文化財団B→C 會田瑞樹パーカッションリサイタルは仙台／東京において熱狂的な成功をおさめ、NHK-FM「現代の音楽」において2週に亘り放送。また、ライヴストリーミングスタジオ渋谷 SUPER DOMMUNE にて「打楽器百花繚乱 會田瑞樹の世界」と題して5時間生放送で特集されるなど、新世代の芸術家として多彩な活動を展開している。

### …大阪文化祭賞とは…

大阪文化祭賞の創設は昭和38年にまで遡り、これまで多くの芸術家、実演家が受賞しています。関西の著名な芸術家・文化人・ジャーナリストが、第1部門「伝統芸能・邦舞・邦楽」、第2部門「現代演劇・大衆芸能」、第3部門「洋舞・洋楽」の3部門について、公演を審査し、大阪文化祭賞、大阪文化祭奨励賞を選考します。

※写真はデジタルデータもございます。ご入用の際はE-mailでお送りいたしますので、下記事務局まで電話またはE-mailにてご連絡ください。

### ■この件に関するお問い合わせ先■

【大阪文化祭賞事務局】

公益財団法人関西・大阪21世紀協会 文化事業部 梶浦

e-mail / kajiuraa@osaka21.or.jp

TEL/06-7507-2002 FAX/06-7507-5945